

上七軒地区

[北野・西陣]

上七軒は京都で最も古い芸妓（京都の芸者のこと）地区です。その名前は「7軒の上の家」を意味し、室町時代（1333～1573年）にここに建てられた7軒の茶屋を指しています。それらの接客用の家屋は、15世紀半ばの戦で破壊された隣接する北野天満宮の再建の際に、残った資材で建てられました。

上七軒は、1587年に北野天満宮で北野大茶湯が開催された後、繁栄しました。当時の日本で最も力のあった武将の豊臣秀吉（1537～1598年）が主催したこの文化的集会は、支配階級の目に映る秀吉の地位を高めるのに役立ち、その結果彼の支配が正当化されました。この茶会で上七軒の茶屋が提供した団子が秀吉から高い評価を受け、この地区の名声が急速に広がりました。

今日でも上七軒を訪れる人は、伝統的な店や茶屋が立ち並ぶ路地を歩いている舞妓（見習いの芸妓）の姿を見つけることができるかもしれません。ただし、この地区の芸妓置屋は、常連客に招待された人しか利用することができません。

一般の人たちは、この地区の中心部にある上七軒歌舞練場で芸妓と舞妓によるショーを見ることができます。毎年春には、「北野をどり」と呼ばれる上七軒の芸妓や舞妓たちによるショーが上演されます。1952年以来毎年開かれているこのショーは、それらの伝統的なアーティストが活動している姿を見る絶好のチャンスの1つです。